

孤児だった父と娘の物語

族」と書いたら、不合格。公安
 大学願書の国籍欄に「日本民
 くに慈しんでくれた。
 が養母の付親妻は、妻の子よ
 が彼を日本人と知っていた。だ
 小さな貧しい村では、だれも
 以後「孫玉福」として生きる。
 中国人の養父母に助けられた。
 生き別れ、黒龍江省牡丹江市で
 大混乱の逃避行のなかで家族と
 まれ、終戦のとき3歳9カ月。
 幹は、旧満州の軍人家庭に生

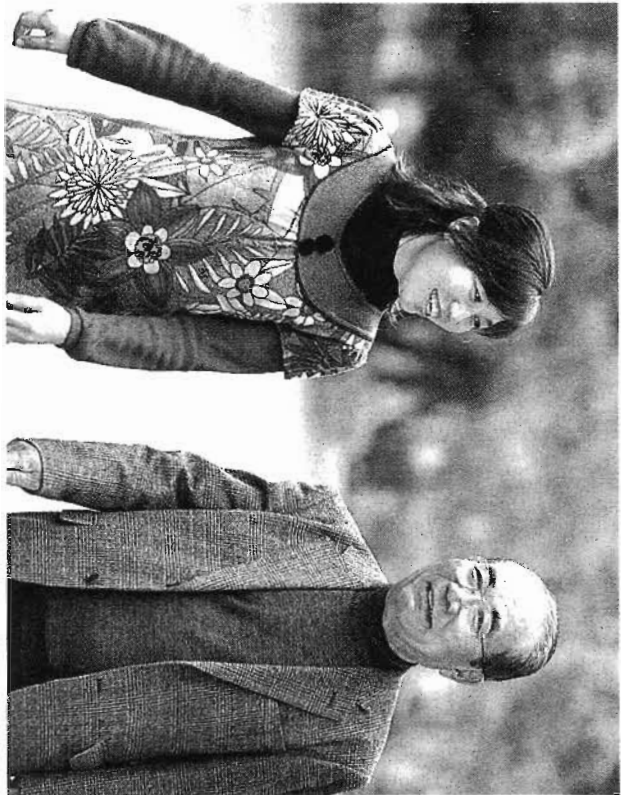


池田遼江さん

場する前ことだった。
 兄」という言葉がメデアに登
 帰国したからだ。「中国残留孤
 査にのりだす前の70年、独力で
 加わっていない。国が本格調
 認に、久枝の父、城戸幹(68)は
 2千人以上が原告となった訴
 世の全である。
 ために生まれたのが二世・三
 た国家賠償訴訟。それを支える
 せ、自立支援も怠った」と訴え
 な対応が私たちが帰国を運ら
 両親や祖父が「国の理不尽
 ません、ただの日本人です」
 と結婚して生まれたので、すみ
 です。でも帰国後に日本人の母
 「父が帰国者なので私も二世
 がまわってきた。

なげればと思つた」と久枝。
 気がついた。一から勉強し直さ
 争のことも何も知らないことに
 き、父の生まれ育った満州や戦
 「前の年の夏休みに大連に行
 たときは驚いた。
 「中国に留学する」とい出し
 57年、大学生の次女、久枝が
 はずかしが話さなかつた。だが
 っていたある日本婦人に何とぞ
 る。2人とも帰国前、中国に残
 池田と幹はもう一度会ってい
 年になるまで松山市の建設会社
 で勤めた。

妻、陵子(57)と結婚。01年に定
 妻、陵子(57)と結婚。01年に定
 勉強した。その高校で出会った
 夜間高校で懸命に日本語を
 28歳で初めて日本の土を踏
 ていた両親が判明したのです」
 が決め手となり、養父眞に戻つ
 いう。祖父の名前でした。それ
 『城〇〇蔵』と書いてあったと
 「ぼくが着ていた服の裏地に
 る証言にたどりつく。
 る人を探し歩いた。ついに、あ
 などに送り、生き別れ当時を知
 200通の手紙を日本赤十字社
 局に目をつげられる。それでも



城戸幹さん(右)と娘の久枝さん

旧満州の首都だった長春の大
 学で2年間、父の中国の「親
 類」を訪ね歩く。父が建てた
 「中国の祖母」の墓も訪れた。
 異国で孤児になった父、そんな
 父を慈しんだ養父母たち。幾重
 もの人生が自分の今につながっ
 ている。父の物語を書こう。

その取材中、久枝は池田遼江
 (63)と出会う。父と同じ牡丹江
 からの帰国者で、国賠訴訟原告
 因代表になった人だ。
 池田は中国にいたころ、幹と
 ひそかに会っていた。59年秋、
 また中學生だった。
 「ある日、回教生の家で会っ
 だの。いきなり城戸さんが『ぼ
 くは日本人孤児です。あなたも
 日本人です』というから、私
 怖くなくて『私は中国人として
 生きる』と言ったんです」
 7連国境に駐屯する軍人の四
 女に生まれた池田は、終戦のど
 さくまで家族と離ればなれど
 り、中国の養父母に救われる。

「ぼくが着ていた服の裏地に
 『城〇〇蔵』と書いてあったと
 いう。祖父の名前でした。それ
 が決め手となり、養父眞に戻つ
 ていた両親が判明したのです」
 28歳で初めて日本の土を踏
 んだ。夜間高校で懸命に日本語を
 勉強した。その高校で出会った
 妻、陵子(57)と結婚。01年に定
 年になるまで松山市の建設会社
 で勤めた。
 57年、大学生の次女、久枝が
 はずかしが話さなかつた。だが
 相談にのりだす前の70年、独
 力で帰国したからだ。「中国
 残留孤児」という言葉がメデア
 に登ったときは驚いた。
 「前の年の夏休みに大連に行
 きた。父の生まれ育った満州や
 戦争のことも何も知らないこと
 になった。一から勉強し直さ
 なければと思つた」と久枝。
 終戦のとき3歳9カ月。
 大混乱の逃避行のなかで家族と
 生き別れ、黒龍江省牡丹江市で
 中国人の養父母に助けられた。
 以後「孫玉福」として生きる。
 小さな貧しい村では、だれも
 が彼を日本人と知っていた。だ
 らに慈しんでくれた。
 大学願書の国籍欄に「日本民
 族」と書いたら、不合格。公安

池田は中国にいたころ、幹と
 ひそかに会っていた。59年秋、
 また中學生だった。
 「ある日、回教生の家で会っ
 だの。いきなり城戸さんが『ぼ
 くは日本人孤児です。あなたも
 日本人です』というから、私
 怖くなくて『私は中国人として
 生きる』と言ったんです」
 7連国境に駐屯する軍人の四
 女に生まれた池田は、終戦のど
 さくまで家族と離ればなれど
 り、中国の養父母に救われる。

池田遼江さん